弟子たちの訓練

セッション1: 弟子を作ること、改宗者ではなく

ロン・ライブリー、M.Div.、M.A.による提供 – BiblicalMentoring.org(学問)

ステップ1: 開会の祈り

ステップ2: それぞれが記憶の節を引用します: **マタイによる福音書 28:19-20**

19 ゆえに行って、すべての民族の弟子としなさい、
父と子と聖霊の名において彼らに洗礼を授けます。
20人は、私が命じたすべてを観察するように教えている。
見よ、私は永遠にあなたと共に、時代の終わりまで。」

ステップ3: 聖書の章を読んで議論してください – **マタイによる福音書28章**

ステップ4: 個人申請やグループディスカッションのための質問:

一. 私たちは何がわかりますか? 主イエスは私たちに使命を与え、行わせたのですか?

二. 改宗者はどのようにしてキリストの信仰に至るのでしょうか?では、どのようにして弟子になるのでしょうか?

三. 改宗者や弟子を作る責任は誰にあるのかを議論してください。その影響について議論してください。

四. なぜキリストのメッセージと方法に従って王国を築くことが重要なのでしょうか?

ステップ5: *本の内容を読んで議論してください:*

本からの序文:

イエスは堕落した民族を救い、永遠に彼を讃える民を立てるために来られました。この使命を果たす中で、彼は私たちの中で僕として仕え、病人の世話をし、心の傷ついた者を癒し、多くの人々に福音を伝えました。しかしそのすべてを通じて、彼は弟子を育てることに注意を向けました。弟子たちを育て、神のことを学び、その足跡に従う人々を。

ご自身の死と復活の後、天に戻る前に、これらの信者たちに「すべての国の弟子となるように」と言われました。彼らは神の意図を理解しました。なぜなら、神はただ彼らに、彼らに対して行ったことを続けるよう求めていたからです。大宣教は新たな行動の道を呼びかけるものではなく、神自身の使命の道を説明するものです。

その単純さが巧妙で、これがキリストが神のために世界に届く計画の本質でした。彼はそれが失敗しないことを知っていました。真の弟子は主の似姿に成長するだけでなく、やがて主の霊によって、主の命を他者に再現するでしょう。

また明らかなのは、この戦略がイエスのミニストリーの推進力をすべてのキリスト者の召命に取り入れているということです。確かに、多くの人が大きな会衆の牧師や日曜学校のクラスを教えることに召されているわけではありませんが、すべての人が弟子形成に参加する召命を受けています。彼の使命は特別な賜物ではありません。それは命令であり、キリストを信じるすべての者は従わざるを得ません。

しかし、この義務は今日の教会ではほとんど認識されていません。その使命が否定されているわけではありませんが、多くの人がそれが日常生活の仕事にどう関係しているのか全く分かっていないのです。

だからこそ、この本は非常に歓迎されるのです。それは弟子訓練の実践的な側面にまで迫っています。このミニストリーでの幅広い経験から、キース・フィリップス博士は、キリストの道に人々を導くという苦労と苦労の中で学んだ原則を共有しています。

彼は、人格を磨くことよりも人格を育むことが重要だという前提に基づいています。「神の御業を行う前に、あなたは神の人格でなければなりません」と彼は書いています。このアプローチの基本は、自己中心的な心に死ぬことが聖書の必

要性であり、そうすることでキリストが心の中で疑いようのない支配を持つことにあります。この献身の根底には、神の権威への服従の態度、強い個人的規律、外向的な愛、そして共同体意識に反映された献身があります。

著者は、そのような成長がどのように育まれるかを詳述し、弟子と弟子の双方の人生における重要な要素を指摘しています。それが簡単なことではないことがわかるでしょう。そして近道はありません。この仕事を行うには、揺るぎない決意と犠牲的な思いやりが必要です。

ここで、ついに私たち全員がこの問題に向き合わなければなりません。私たちはその代償を払う覚悟があるのでしょうか?この本が私たちに必要性をより実感させ、マスターの仕事に自信を持って目的を持って関わるきっかけを与えてくれると信じて、あなたに推薦できることを喜んで思います。- ロバート・E・コールマン

第1章 著者による キース・フィリップス:

ワッツに来て最初の1ヶ月、私は殺人事件を目撃しました。

ロニーは元気でエネルギーにあふれた小さな子供でした。彼は私が数週間前に連邦の住宅プロジェクトで始めた子供向け聖書クラブに参加していました。その日、彼が裸足で割れたガラスの散らばった野原を歩いていたことで私の注意を引きました。彼がどうやって足を切り裂かずに済んでいるのか想像もつきませんでした。それでも彼は全く気にしていない様子でした。

突然、年上の少年がロニーに駆け寄り、胸を刺し、トランジスタラジオを掴んで走り出した。ロニーは地面に倒れた。

信じられなかった。冷や汗が出た。手のひらが汗ばんでしまった。心臓が激しく鼓動しながら彼の方へ走った。誰かに助けを求められるのが怖かった。助けたかったけど、どうすればいいかわからなかった。だから、私は人混みの中で迷子になった。

ロニーの遺体の周りに集まった子供たちやティーンエイジャーたちの反応には驚かされました。敵意や憤りを期待していましたが、彼らはまるでカーニバルにいるかのように振る舞いました。警察が来るとブーイングをし、救急車が来ると歓声を上げました。彼らは笑い、叫び、他の殺人事件の話をし合いながら競い合いました。誰もロニーのことを気にかけていないようでした。彼の兄弟でさえ悲しみを見せませんでした。

私は永遠にも思えるほどそこに立ち尽くしていました。私にとっては恐ろしい出来事が、他の誰にとってもよくある出来事だったようです。しかし、これは始まりに過ぎず、神が私を呼びかけたこの宣教地帯に対して私の心を打ち砕く一連の衝撃の最初でした。

ロニーが亡くなった畑から離れているとき、ジミーという若者が淡々と言った。「大したことじゃない。ここでは人が殺されることが多い。1歳のいとこが数ヶ月前に殺された。彼は病気で午前2時に叫んでいた。母親は本当に怒っていた。ベッドから引きずり出して窓から投げ捨てた。頭が折れた…」

聞けば聞くほど、より多くのことを学んでいきました。

私が会った子供たちの誰一人として彼の父親を知らなかった。彼らは気にしていないようだった。それが現実だった。

最初は、ダレルが3日間何も食べていないと言ったことが本当だと信じられませんでした。アメリカでは誰も飢えていないことは知っていました。彼が私を騙そうとしているのかと思いました。しかし、彼の母親が依存症で、わずかな収入を麻薬に使っていることを知りました。

12歳のテレサに子供がいることは知っていましたが、彼女が赤ちゃんが兄だと言ったときは困惑しました。後で知ったのは、テレサの父親が彼女を妊娠させたのです。

16歳のロンダは、生後2週間の母親で、赤ちゃんの泣き声に耐えられなかった。彼女は薬物でハイになり、息子を拳で殴り、肋骨を折り肺を貫いた。

9歳のベリンダは、叔父からの性的虐待に常に怯えながら暮らしていました。母親は気にしませんでした。兄弟姉妹たちはただ笑い、彼女をからかっていました。

ゲットーでのひどい荒廃と絶望は私を打ちのめしました。まるで別の世界に足を踏み入れたかのようでした。飢え、虐待、薬物、死、12歳の母親、非嫡出子。誰も気にかけませんでした。誰も気にかけませんでした。

私はイエスこそがこれらの大きな肉体的・霊的ニーズの答えでなければならないと知っていました。しかし、福音をゲットーにどう関連性のあるものにすればいいのか全く分かりませんでした。

私が思いついた唯一の方法は大規模な伝道でした。そこでワッツで子ども向けの聖書クラブを始めました。多くの子どもたちが集まりました。みんな「イエスを受け入れたい」と言いました! そして皆、友達を連れて行きたがっていました。母親たちは子どもたちが「宗教を得ている」ことを喜び、ティーンエイジャーたちはクラブがいつ始まるのかを知りたがっていました。数年のうちに300人のキリスト教系大学のボランティアが私と共に、毎週何百人もの子どもたちに聖書研究を教えました。

私たちは伝道の集会を組織しました。多くの人が参加し、中には「あの白人たち」に会うためだけに来た人もいました。私はシンプルな救いのメッセージを説くと、ほとんどの人が必ず手を挙げて、自分の罪が赦され、神と平安であってほしいと願う意向を示しました。私たちは念入りに決断カードを記入し、新しい改宗者一人ひとりに忠実にフォローアップの資料を送りましたが、多くの人が読み書きができないことに気づいていませんでした。

私は依存症や放置された子どもと一緒に祈り、「神の祝福がありますように」と言って去りました。これらすべての新しいクリスチャンを導くことは不可能だったので、聖霊が彼らを守ってくれると考えました。

ロサンゼルスのゲットーにいた何百人もの人々が「キリストを受け入れた」のです。友人たちは私の背中を叩き、私がよくやっていると励ましてくれました。私は彼らを信じたかったのです。そしてしばらくの間は信じていました。

しかし、月が年に変わるにつれて、深刻な問題があることを認めざるを得ませんでした。キリストのためにこれらの決断がなされたことで、何百もの人生が変わるはずでした。しかし、どんなに探しても一つも見つけられませんでした! 何かがうまくいかなかったのです。

プライドのせいでもあり、無知のせいもあり、物事が何とか元に戻ることを願い続けました。しかし、すべてが無駄だったという心の奥底を拭いきれませんでした。持続的な実りはありませんでした。私の聖書クラブの入れ替わり率はあまりにも高かったのです。毎週違う若者たちが来ていました。子供の頃にキリストを学んだティーンたちはまだ友好的でしたが、彼らはポン引きや売春婦、売春婦になっていました。元聖書クラブの子供たちはストリートギャングとつるんでいました。福音は効果を発揮しなかったように思えました。

私は落ち込みました。もう少しで辞めようかと思いました。

絶望の中、私は神の言葉に向かいました。人生で初めて、すでに知っていることを証明するのではなく、神が何を言われているのかを見たいと思いました。

マタイによる福音書28章19章20節を読んでいるとき、私は驚くべき啓示を受けました。キリストの教会への使命は「回心者を作る」ことではなく、「弟子を作ること」でした。それだけでした! すべての意味を理解してはいませんでしたが、すぐに弟子道こそが私のミニストリーに欠けていた要素だと分かりました。

私は伝道のベルトに何百もの刻みをつけていましたが、成熟しつつあるクリスチャンを見つけることはできませんでした。私は福音を宣べ伝えましたが、弟子を作ることに失敗しました。

新約聖書を学べば学ぶほど、私の新しい確信はより確固たるものになりました。弟子訓練こそが、私が責任を持つ霊的な子どもたちの栄養失調や弱さを避ける唯一の方法です。それはゲットーの肉体的・霊的衰退を逆転させる成熟したクリスチャンを生み出す唯一の方法です。

神は私の最初のミニストリーへのアプローチを悲しんでいることを知っていました。それ以来、主が与えてくださるすべての資源を弟子を作ることに集中すると誓いました。

(11-14ページ)

ステップ6: *最後に、個人的な祈りの願いを共有し、それぞれが他の願いのために祈ることで締めくくります。*

出典: 弟子の形成 キース・フィリップス博士著。フレミング・H・レヴェル社出版、1981年。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。内容(学習問題を除く)は本書から抜粋し、改訂なし

改訂20261011